

文京共創フィールドプロジェクト（^{ビー}タス **B+**）の実施結果について

1 事業概要

地域課題や社会的課題の解決に向けて、スタートアップ企業等が行う先進的・画期的な技術等による実証事業を募集し、採択した事業に対し、企業等と区の関係部署とのマッチング、実証事業等に伴う区有施設の提供、区の広報物を活用した事業の周知及びふるさと納税を活用した資金調達等の支援を行う。

2 資金調達サポート

(1) 事業募集

令和4年5月1日から6月26日まで

(2) 応募事業数

20事業

(3) 採択事業

事業名	NaviLens を活用した視覚障害者の移動支援事業	メンタルヘルスケアで中小企業を元気に！客観的評価システムとオンライン支援で早期発見・不調予防
実施企業等	(株)メジャメンツ (東京都中央区)	(株)BANSO-CO (東京都中央区)
事業内容	シビックセンター各所に視覚障害者の移動をサポートする説明文を組み込んだ2次元コードを貼り、視覚障害者向けアプリを用いて、人流が多い場所でもスムーズに移動できるか検証する。	区内中小企業の従業員を対象として、オンラインカウンセリング及び客観的評価システムにより、メンタルヘルス不調を早期発見・予防できるか検証する。
事業実績	別紙のとおり	
ふるさと納税 目標金額 寄付金額 (達成率)	[目標金額] 2,120,000円 [寄付金額] 2,120,000円 (100.0%)	[目標金額] 3,000,000円 [寄付金額] 730,000円 (24.3%)
寄附金 募集期間	令和4年10月3日から12月31日まで	

3 行政連携サポート

(1) 事業募集

令和4年10月から受付開始（通年実施）

(2) 事前相談数（令和4年度実績）

30事業

(3) 採択事業

事業名	AIを用いた視覚障害者に対する新しい情報提供サービスの実証事業	地域密着型「地域学習環境推進事業」	コミュニケーションサポートツールを活用した効果検証
実施企業等	TAKAO AI(株) (東京都八王子市)	(株)エンパシージャパン (東京都世田谷区)	Hubbit(株) (東京都品川区)
事業内容	AIを活用して区のお知らせ等を、視覚障害者にも分かりやすい情報へと変換・提供し、AIによる生成データの可用性や、視覚障害者へどのような種類のコンテンツ提供の効果が高いのかを検証する。	自分の人生を自分でデザインできる力を引き出すための体験学習を、保護者参画で事業運営を行い、人とのつながり・自己肯定感を高め、地域での児童への体験学習常用化の定着などを検証する。	高齢者でもIT利用ができるよう、設計された高齢者向けタブレットアプリケーション「Carebee」を活用し、医療・介護事業所と連携し、軽度認知障害以前の方へ対人交流の増加を促すことにより、予防効果が得られるのかを検証する。
事業期間	実証事業実施中		

4 その他

(1) 終了した実証事業について、事業者による事業報告会を実施予定

(2) 令和5年度 資金調達サポートのスケジュール

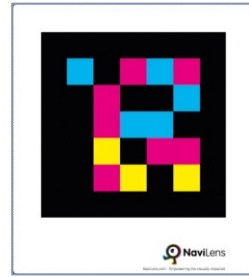
- 6月末まで 申請受付
- 7月～8月 審査・事業採択
- 10月～12月 ふるさと納税による寄付募集
- 令和6年1月 助成金交付
- 3月 実績報告

NaviLensを活用した視覚障害者の移動支援事業

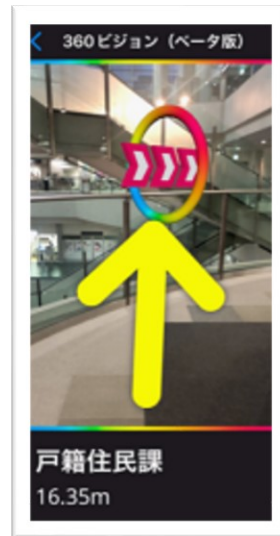
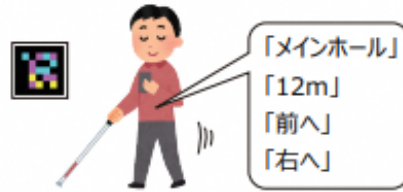
実施事業者：株式会社メジャメント

1 実証事業概要

- 文京シビックセンターの地下2階・1階・2階・9階に「タグ」と呼ばれる2次元コードを2022年11月から2023年3月の間、計80か所設置
- 2階戸籍住民課や9階障害福祉課のほか、トイレ、エレベーター、総合案内等への誘導を目的として設置
- 「ナビレンス」というアプリでタグを読み込むことで、視覚障がい者の移動をサポートする情報を音声で伝え、区役所内をスムーズに移動できるか検証
- 新機能「360ビジョン (β版) ※」の試行
※ スマートフォンのジャイロ機能を活用し、アプリで検出したタグを空間内でロックし、タグがカメラの視界から外れても案内を行う機能



[タグ]



※ タグの設置にあたっては、障害当事者の方と設置個所等を事前に確認

2 実施結果

- 2022年11月から2023年3月の期間で、延べアクセス数4,340回
- 体験者のうち計66名の方がアンケートに協力

[体験者の主な意見]

- タグを見つけることの難しさがまずあるので、タグの設置方法に関して、何かいい方法があると思う。今回は高さが問題になるのかなと感じた。
- 右耳と左耳の間こえ方で方向がわかったので、曲がる場所がわかりやすかった。
- 施設の入り口にルート案内の起点があると、よりスムーズに移動ができるようになると思う。またそれと並行して、音声でのある程度の屋内の位置関係が分かるような説明もあると助かる。
- 各トイレの入り口にある「男性用」などの読み上げをしてくれるタグに、トイレ内の簡易的な配置説明があると、かなり助かる。
- 観光施設の説明や食堂のメニュー、公共トイレ、ホテルの客室、人がいなくて聞けない場所、個室になる 場所などがあると、困りごとの解決になる。
- 神経が音の方について、外界に集中できず、ちょっと怖いような感覚を覚えた。

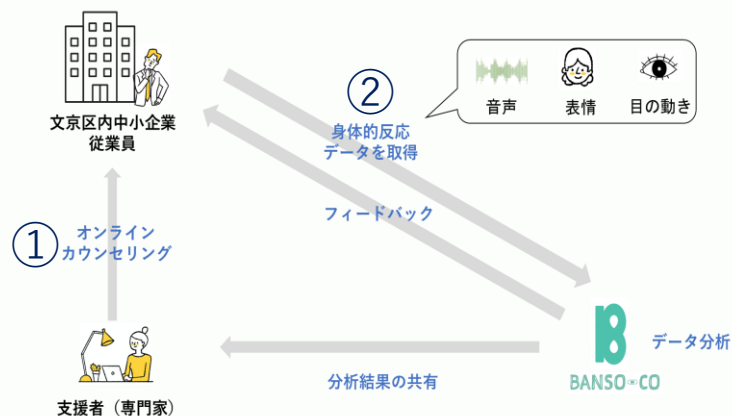
3 今後の展開

「タグを見失う」ことに対する改善意見が最も多く、連続的に読み取りやすくなるよう「タグの設置高さ」や「スマートフォンの持ち方の固定化」等、ルールの一貫性が重要となる。

また、これまで人の往来が少ない博物館などと異なり、人の往来が多い場所においては、ぶつかりそうな時等の対応についても考える必要があり、胸ポケットへの固定、首からぶら下げるなどのソリューションも含めて利用者へ普及する必要がある。

1 実証事業概要

区内中小企業3社の協力により、メンタルヘルス不調者の早期発見・予防ができるか検証するため、以下2点の実証事業を実施

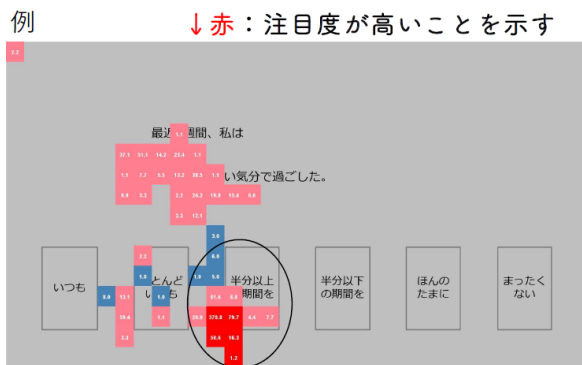


- ① すきま時間を使った、専門家（心理士・医師等）によるオンラインカウンセリングにより、サービス利用前後のメンタルヘルス状態の向上の有無を検証
- ② 身体的反応（音声、表情、目の動き）を活用した客観的評価システムを開発し、パイロット調査の実施によるシステムの有用性を検証

【パイロット調査】

計測画面の注目度から、質問項目に対する回答を推定し、目の動きから推定された回答とアンケートでの自己回答と異なるケースがないか検証する。

また、画面の輝度を段階的に上げて、目の動きとメンタルヘルスの相関関係を検証する。



2 実施結果

①オンラインカウンセリング

- 4か月間の実証期間中に、合計13名が30回利用
- アンケートへの回答があった6名中5名（83.3%）で、精神健康度の改善、5名中4名でうつ症状の改善が見られた。
- 参加者からは、メンタルヘルス支援の良かった点として、相談のしやすさ・気軽さ、相談者への寄り添いなどが挙げられた。
- 福利厚生サービスへの導入や個人による利用継続にも前向きな意見が多かった。

②身体的反応を活用した客観的評価システム

- 3名がパイロット調査に参加
- 目の動きから推定された回答は、アンケートでの自己回答と異なることが多かった。
- ワーク・エンゲージメント※が高いほど、輝度の変化に対する目の動きなど身体的反応が良くなる可能性が示唆された。

※「仕事から活力を得ていきいきとしている」、「仕事に誇りとやりがいを感じている」、「仕事に熱心に取り組んでいる」の3つが揃った状態

3 今後の展開

利用者における効果が高いことは明らかになった一方で、サービス導入や導入後の利用率向上には課題が残る。

目の動きを用いた客観的評価システムは、より多くの参加者を集め、引き続き検証していく必要がある。

その際には、これまでの研究でメンタルヘルスの客観的評価に用いられている指標（ストレスに関連するホルモンや心拍変動等）も合わせて計測し比較した検証を行う。